

平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 特定非営利活動法人とちぎ教育ネットワーク

代表団体名

事業名称 ICT利活用による地域共創基盤型若年者就労支援ネットワーク事業

1 事業実施概要

等様々な事情を抱えた未就労の若者が増加しており、彼ら対しては一般就労ではなく、段階別の就労経験、週1～2回の継続的就労などの限定就労の必要性が急務となっている。

そこで、これらの課題に対応していくために、一般就労が困難な若者や独居老人をはじめとするサービス対象者とのコミュニケーションについて、TV電話等を通して円滑化を図り、面談や生活支援を負荷なく実施する「対面型コミュニケーションツール」と若者とジョブ・シーズを提供する企業・農家等との相互の情報を流通させると同時に、ICT人材（相談員／コーディネータ）の適切な情報処理等により確度の高いアサインを目指す「ジョブプログラムシステム」を設計、開発及び運用を行う

2 目標の進捗状況

(1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
システム構築	＜対面型コミュニケーションツール＞50台	50台設置完了	○	設置校訂表
	＜ジョブプログラムシステム＞1式	100%完成	○	仕様書、マニュアル、設計書を受諾
	＜若年者就労訓練・ICT人材育	100%完成	○	DS教室を実施した

	成システム >1 式			
地域協議会の開催	< 地 域 協 議 会 > 2 回	2 回実施	○	議事録
ICT 人材の育成 (ICT 人材教材開発)	実 施 内 容 < 育 成 対 象 の 選 定 > < 育 成 手 法 の 検 討 > < 育 成 コ ン テ ン ツ の 整 備 > < 育 成 プ ロ グ ラ ム の 整 備 > < ICT 人 材 育 成 の 試 行 > < 成 果 検 証 及 び 課 題 抽 出 > < 管 理 運 営 体 制 の 整 備 > の 7 工 程	1 0 0 %実 施	○	株式会社日本総合研究所 の報告書
ICT 人材の利活用	< 利 活 用 方 法 の 検 討 > < 育 成 プ ロ グ ラ ム と の 整 合 > < 利 活 用 の 試 行 > < 成 果 検 証 及 び 課 題 抽 出 > の 4 工 程	1 0 0 %実 施	○	株式会社日本総合研究所 の報告書

事業モデルの構築	＜事業モデルの設計＞＜ジョブ・シーズの確保＞＜シミュレーションの実施・検証＞＜実施体制の整備＞の４工程	100%実施	○	株式会社日本総合研究所の報告書
----------	---	--------	---	-----------------

(2) 進捗率の理由（達成状況が△又は×の場合はその理由）

3 事業による成果

(1) 事業による成果（アウトプット指標）

項 目	成果指数	備考(成果指数の説明等)	調査時期
若者の就労率	43%	就労 30 人 (30/70)	2011 年 3 月
就労支援システムへの若者の登録者数	70 人		2011 年 3 月
若者就労支援システムへの若者の参加者数	52 人		2011 年 3 月
対面型コミュニケーションツールを利用する独居高齢者等数	50 人		2011 年 3 月
対面型コミュニケーションツールの利用頻度	8 回/1 日あたり		2011 年 3 月
対面型コミュニケーションを通じた注文数	124 回		2011 年 3 月
ICT 人材育成プログラムの修了者数	33 人		2011 年 3 月

(2) 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項 目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期
ジョブシー ズ数	43 口増	台帳ないし DB を 元にジョブシーズ の登録企業数及び それらのジョブシ ーズ数から把握す る	システム導入時と 2011年3月時点におけ るジョブシーズを持 って前後比較を行う	2010年11月 2011年3月
ジョブシー ズに対する 成案数	51 件増	台帳ないし DB を 元にジョブシーズ 数とそれらに対す る無業若者の就業 数の割合で把握す る	システム導入時と 2011年3月時点におけ るジョブシーズに対す る若者の就業成功数 を持って前後比較を行 う	2010年11月 2011年3月
連続就労時 間	2 時間/人	台帳ないし DB 元 に就労している若 者 1 人当たりの就 労時間を集計した 上で一定期間で比 較を行う	システム導入時と 2011年3月時点におけ る若者の就労時間数 を持って前後比較を行 う	2010年11月 2011年3月
利用者数(就 労支援、就労 訓練)	36 人増	就労訓練システム に参加した若者の 数を DB ないし台 帳で把握する	システム導入時と 2011年3月時点におけ る就業訓練に参加した 若者数によって前後比 較を行う	2010年11月 2011年3月
主観的不安 感(高齢者、 高齢者家族)	4.2 ポイント改善	アンケートによっ てフレッツフォン を貸与している高 齢者とその家族か ら利用前後での社 会的関係について 聞きポイント制で 整理をする	アンケートによってシ ステム導入時と 2011 年 3 月時点における高 齢者とその家族の不安 感をポイント制にし把 握前後比較を行う	2010年11月 2011年3月
主観的利便 度	4.5 ポイント改善	アンケートによっ てフレッツフォン を貸与している高 齢者とその家族か ら利用に関する評 価を聞きポイント 制で整理をする	アンケートによってシ ステム導入時と 2011 年 3 月時点における高 齢者とその家族の利便 性をポイント制にし把 握前後比較を行う	2010年11月 2011年3月

家族の見回り件数・時間の減少率	3.3%	システムの導入前後で家族の見守り頻度等をアンケート等で把握する	アンケートによってシステム導入時と 2011 年 3 月時点における高齢者とその家族の感じる見回り等についてポイント制にし把握前後比較を行う	2010 年 11 月 2011 年 3 月
就労訓練を基にした見回りサービスに携わる若者の就業増加率	12%	システム導入前後で若者の福祉分野への就業あるいは就業成功を把握する	システム導入時と 2011 年 3 月時点における若者の見回りなど福祉サービス業務への就業ないし就業成功数をもって前後比較を行う	2010 年 11 月 2011 年 3 月
ICT 人材の増加	33 人	ICT 人材育成プログラムへの参加者の記録から修了者を把握する	ICT 人材育成プログラム実施の前後で参加者数の日買うを行う	2010 年 2 月 2011 年 3 月

4 システム設計書

別添 2 のとおり。

＜システム運用結果＞

1 システム運用で得られた成果

東日本大震災時に独居老人等への安否確認がTV電話を通じてされたため比較的詳細な状況が分かった。また余震が続く中也安否確認を取った副産物として独居老人等への安心感が与えられた

非常時の安否確認確認が明示的に出来るという点や顔が見えるというTV電話が持つ特性による安心感を与えたという点があった。

2 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

今回、独居老人や老老世帯を中心とした生活支援を大きな柱の一つに捉えて事業を展開している。その中心となっているのがテレビ電話の利活用である。高齢者の生活支援をする上で、電話だけよりも顔の見える関係性を作ることでの安心・安全の提供も視野に入れている。しかしながら、テレビ電話機器の利用という点で「難しい」「分かりにくい」「使えないだろう」など利用を不安視する声が多く、なかなか普及が難しいというものがあつた。解決方策は①機器の利用を簡素化する、②機器の使用が慣れるまでコーディネーターがご自宅に伺って支援していく、といった2通りになる。

- ① の機器の簡素化については、画面のカスタマイズすることが可能となり、画面上の操作がやりやすくなった。
- ② の支援については利用される高齢社宅にはコーディネーター自らが訪問して、機器の使用方法などを詳しく説明することで高齢者との関係性も深まり、その後の若者に繋げやすいことが判明した。

3 自律的・継続的運営の見込み

【資金計画】

23年度以降、ICTシステム設計・構築費（ソフトウェア使用料）が470千円／年、ICT機器類整備費（機器類リース・レンタル費、保守費等）が8,723千円／年で、年間合計9,193千円が固定費として発生することから、それらを賄うため、平成26年度までの4年間をかけて収支均衡を図るべく、次の収入減の確保を計ることとしている。

第一に、個人、個人事業主及び個人事業主・企業・団体を対象としたシステム利用会費収入を確保することとする。

第二に、事業範囲を拡大するための人員確保と育成を目指し、ICT人材セミナー等その他事業収入を確保することとする。

第三に篤志家等を対象とした寄附等収入の確保にも留意する。

第四に一定の事業成果を踏まえ地域の雇用創出等につなげていくため、地元自治体を中心とした予算措置による支援体制についても実現に向けた交渉を続けていくこととする。

【実施体制】

地域協議会を母体とした地域連携、広域連携を実現していくために、一般社団法人栃木県若年者支援機構を中心に、傘下に糾合している NPO 等活動ユニットと連携しより広域的な活動を続けられるよう取り組み体制をさらに整えていくこととする。

4 今後の展開方針

次年度以降の主な発生費用としては情報通信システムの保守等があるため、これらの費用を賄うべく、すでにジョブ・シーズ獲得に向けた活動を開始しており、一定の見込みが成り立つ状況にあることを踏まえ、平成 22 年度より以下の仕組みによる収入見込みを計画していくこととする。

具体的なビジネスモデルについては ICT 人材育成プログラムや情報通信システム等の整備と平行して、設計を行い、地域で広くかつ負担小さく分有することをコンセプトとしてジョブ・シーズを提供する企業・団体・農家等のからなるメンバーシップによる会費制及び篤志家からの寄附ない賛助を基本的な収入源として位置づけることとする。

会費については、2～3 の種別を設け、例えば A・B 会員の場合は通常のシステムに載せた若者のアサインを行い、C 会員の場合はジョブ・シーズに対して職歴が長く実績のある若者を優先的にアサインするなど運用のメリハリをつけることとする。また、C 会員の場合は学生(若者)のインターンシップ等キャリア教育の斡旋や支援等を行うことも想定される。

さらに個別の ICT 人材育成に向けたセミナーや相談会などでの参加費等や個別コンサルティングでのフィー等の収入も想定している。

なお、外部資金の導入等別途予算措置を行った場合には前年度に基礎的準備作業を終えた「若者就労訓練・ICT 人材育成システム」の本格的導入に向けた取り組みを進めていくこととしたい。

5 その他

NHK（関東版）内での買い物支援に関する放送. 平成 23 年 1 月 14 日金曜日 7:45 から 8 分程度

下野新聞・平成 22 年 9 月 28 日火曜日・第一面

下野新聞・平成 22 年 11 月 2 日火曜日・社説

＜人材育成状況説明書＞

①申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

1 ICT人材の育成人数

14人育成した。構成は主婦、退職者、チャレンジド、NPO職員等多岐にわたる構成である。

2 ICT人材の育成方法

とちぎ教育ネットワークが平成23年2月22日（火）～3月5日（土）の期間の中で8日間10コマで行った。ミッドメディア（有）の橋本英重氏、同渡辺彩子氏、宇都宮大学総合メディア基盤センター長の永井明氏、宇都宮大学助教 三原義樹氏などを招聘し以下に表す表のような内容で行った。

回	日時	タイトル（講師）	主な内容
第1日目	2月22日（火） 18:30～20:30	オリエンテーション （NPO 法人とちぎ教育ネットワーク 理事長 中野謙作氏 栃木県若年者支援機構 副理事長 塚本竜也氏）	- 本プログラムの概要説明 - 普段の若年者就労相談や情報の活用・コミュニケーションに関する課題の共有
第2日目	2月23日（水） 18:30～20:30	ソーシャルメディアとコミュニケーション （ミッドメディア（有） 橋本英重氏）	- ソーシャルメディアに至る歴史 - ソーシャルメディアによるコミュニケーション
第3日目	2月24日（木） 18:30～20:30	ICT活用実践①【実習を含む】 （ミッドメディア（有） 渡辺彩子氏）	業務の実場面を想定した ICT の活用①（相談記録の蓄積・共有・活用）
第4日目	2月26日（土） 13:30～18:00 （途中休憩）	ICT活用実践②【実習を含む】 （ミッドメディア（有） 渡辺彩子氏）	業務の実場面を想定した ICT の活用②（問合せ対応の記録・共有・活用）
		ICT活用実践③【実習を含む】 （ミッドメディア（有） 渡辺彩子氏）	業務の実場面を想定した ICT の活用③（企業等へのアピール・プレゼン）
第5日目	3月1日（火） 18:30～20:30	プロジェクト管理のシステム化と業務システム （NPO 法人とちぎ教育ネットワーク 理事長 中野謙作氏、永田和洋氏）	- プロジェクト管理とコミュニケーション - システム化・業務システムのメリットと留意点
第6日目	3月2日（水） 18:30～20:30	コンピュータソフトウェア （宇都宮大学助教 三原義樹氏）	基本ソフトとアプリケーション
第7日目	3月3日（木） 18:30～20:30	情報通信ネットワーク （宇都宮大学総合メディア基盤センター長 永井明氏）	情報、通信及びコンピュータネットワークに関する基礎
第8日目	3月5日（土） 13:30～18:00 （途中休憩）	インターネットとコミュニケーション （宇都宮大学総合メディア基盤センター長 永井明氏）	インターネットのしくみとコミュニケーションツールとしての特性
		情報セキュリティ （宇都宮大学総合メディア基盤センター長 永井明氏）	情報資産を保護するための管理方法
		クロージング	研修内容の確認と振り返り

3 1で育成等したICT人材の活用人数

14人を活用した。構成は主婦、退職者、チャレンジド、NPO職員等多岐にわたる構成である。

4 ICT人材の活用方法

ICT機器の操作、若年者と独居老人等の間に立つコーディネーター、若者の相談相手などに活用した。

5 次年度以降の I C T人材の育成・活用内容（予定）

今期講座で収録した VTR を使い、また既存の ICT 要員に見習いとしてつかせ学習させていく予定である。また、ジョブシーズとの交渉にも投入していく予定である。

②事業運営主体における I C T人材の育成・活用内容

1 I C T人材の育成人数

今期は育成をしていない

2 I C T人材の育成方法

今期は育成していないので存在しない

3 1で育成等した I C T人材の活用人数

当該項目は今期はない

4 I C T人材の活用方法

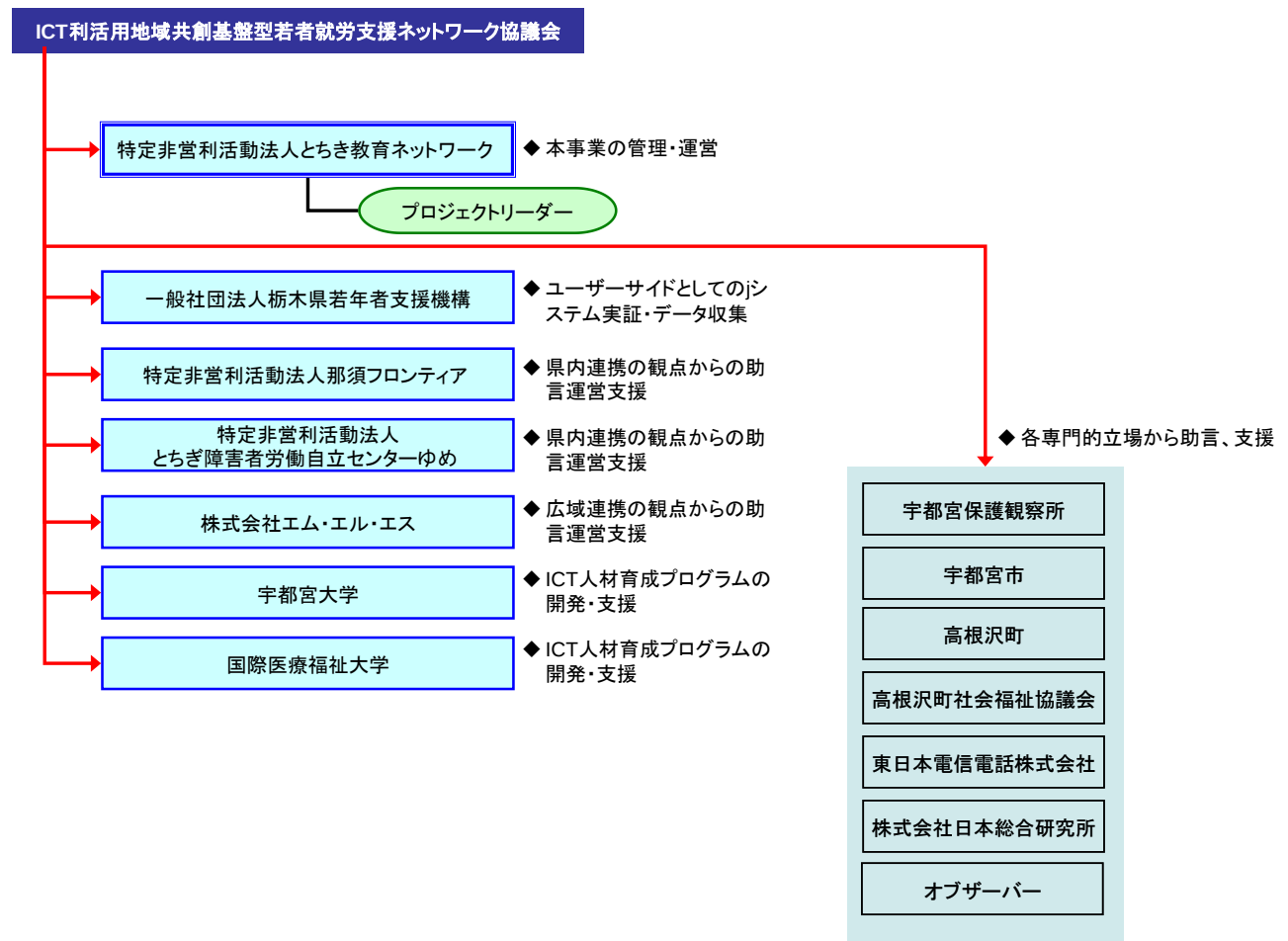
今期がはじめての ICT 導入であるため活用場面はなかった

5 次年度以降の I C T人材の育成・活用内容（予定）

今期申請主体で育成した人材から抽出し、活用していく予定である。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	ICT 利活用地域共創基盤型若者就労支援ネットワーク協議会	ICT 関連機器・設備や ICT システムの仕様等の決定のほか、具体的な事業運営体制、連携主体等における役割分担及び費用負担の在り方、次年度以降の事業の運用・運営の在り方等について検討
2	特定非営利活動法人とちぎ教育ネットワーク	本事業の管理・運営等実施主体（本委託事業の進捗等の統括管理、本協議会の管理・運営、その他関係諸機関等との総合調整）
3	一般社団法人栃木県若年者支援機構	事業の運営・実施、ICT システムの実証及びデータの収集
4	特定非営利活動法人那須フロンティア	本事業に対する特に県内連携の観点からの課題検討等への助言及び運営支援
5	特定非営利活動法人とちぎ障害者労働自立センターゆめ	本事業に対する特に県内連携の観点からの課題検討等への助言及び運営支援
6	株式会社エム・エル・エス	事業全般に対する、特に広域連携の観点からの課題検討等への助言及び運営支援
7	宇都宮保護観察所	事業全般に対する運営支援・助言

8	宇都宮市	事業全般に対する運営支援・助言
9	高根沢町	事業全般に対する運営支援・助言
10	高根沢町社会福祉協議会	事業全般に対する運営支援・助言
11	宇都宮大学	ICT 人材育成プログラム（主として発達障害対応、キャリア教育、社会連携、情報化教育）の開発・支援
12	国際医療福祉大学	ICT 人材育成プログラム（主として発達障害対応、介護技術等）の開発・支援
13	東日本電信電話株式会社	ICT 利活用システム全般の設計及び運営の技術的支援
14	株式会社日本総合研究所	事業モデル等事業全般に対する運営支援・助言、人材育成・活用プログラムの整備支援

事業実施進行表

実施内容	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H23 1 月	2 月	3 月
地域協議会等 設立・準備会合		△						
地域協議会開催		△				△		△
システム構築等に 係る競争入札		△						
ジョブプログラム システム開発								
要件定義		→						
設計			→					
単体試験等			→					
機器調達			→					
システム構築					→			
システム設定					→			
統合試験					→			
仮稼働						→		
システム移動							→	→
対面型コミュニ ケーションツール								
関連機器・設備、 システムの検 討・決定		→						
関連機器・設備、 システム等調達		→						
回線工事、設置				→	→	→		

実施内容	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H23 1 月	2 月)	3 月)
ツール利用								
ICT 人材教材開発								
育成対象の選 定・検討								
育 成 コ ン テ ン ツ の 整 備								
育 成 プ ロ グ ラ ム の 整 備								
ICT 人材育成 の試行								
成 果 検 証 及 び課題抽出								
管 理 運 営 体 制の整備								
ICT 人材の利活用								
利 活 用 方 法 の検討								
育成プログラ ムとの整合								
利活用の試行								
成 果 検 証 及 び課題抽出								
事業モデルの構築								
事 業 モ デ ル の設計								
ジョブ・シー ズの確保								
シミュレー ションの実 施・検証								
実施体制の 整備								
報告書作成								

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

〔１〕 <http://npoten.org/>